

# CASBEE® 新築[簡易版]

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年版 使用評価ソフト: CASBEE-NcB\_2010(v.1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	三宅団地 建替第1期	階数	地上7F
建設地	京都府舞鶴市	構造	RC造
用途地域	第1種住居地域、法22条地域	平均居住人員	0 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	0 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2013年5月 0.0	評価の実施日	2011年2月10日
敷地面積	3,468 m <sup>2</sup>	作成者	共同設計 中山
建築面積	747 m <sup>2</sup>	確認日	2011年2月10日
延床面積	4,319 m <sup>2</sup>	確認者	共同設計 中山



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	73%
③上記+②以外の	73%
④上記+	73%

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

音環境	2.7
温熱環境	2.8
光・視環境	3.6
空気質環境	3.7

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7

機能性	2.5
耐用性	2.8
対応性	2.8

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

生物環境	1.0
まちなみ	3.0
地域性	3.0

**LR のスコア = 3.1**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

建物の	3.0
自然エネ	3.0
設備システ	3.1
効率的	N.A.

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

水資源	3.0
非再生材料の	2.7
汚染物質	4.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

地球温暖化	4.0
地域環境	3.0
周辺環境	3.1

3 設計上の配慮事項	
<p><b>総合</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「良好な住環境」: みどり豊かな配置計画・日照、通風、プライバシーの確保・安心、安全な計画・ユニバーサルデザインの導入</li> <li>「周辺環境への配慮」: 外壁後退及び建物ボリュームの抑制・プライバシーの確保</li> <li>「魅力あるまちづくり」: 高密度化による有効空地の拡充・開放感のあるみどり豊かなバッファゾーン・建物、工作物のデザインによる</li> <li>「ローコストな計画」: イニシャルコスト、ランニング</li> </ul>	<p><b>その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地下ピットの大きさを必要最小限の高さに限定するなどして掘削量を極力少なくすると共に、残土についても建物周囲や駐車場等の地盤レベルを出来るだけ高く設定して、場外への処分量を減らす。</li> </ul>
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>より良い住環境を得るため、住戸は南東または南西向きとする。</li> <li>南東、南西向きのバルコニーに面する窓を大きく取り、屋光利用と自然換気に配慮する。</li> <li>隣接住戸との界壁・床は遮音に配慮した仕様とする。</li> </ul>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>バリアフリーを重視し、住戸内では玄関等引戸の採用・床段差の解消・浴室手摺・扉の開口幅確保に配慮する。</li> <li>共用部では車椅子対応E.V.の設置・廊下幅員、段差解消、防滑仕様の床仕上げを計画する。</li> </ul>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外壁、窓等を通しての熱の損失の防止の為、省エネルギー対策等級(3等級)(住宅性能表示基準)を確保するための躯体断熱を行う。</li> <li>屋光利用、通風・自然換気など、自然エネルギーを最大限利用する為、南東・南西側にバルコニーを配置する。</li> </ul>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>躯体の断熱材として、現場吹付けノンフロン硬質ウレタンフォーム断熱材を採用する。</li> <li>オゾン層破壊、地球温暖化に影響を及ぼすフロンガスを一切使用せず、水をイソシアネートの反応で発生する炭酸ガスにより発泡(水発泡)する地球環境に優しい材料とする。</li> </ul>
<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>防犯対策を重視し、共用部分の見通しの確保と出入口の限定、夜間照度の確保、専用部分では防犯性能の高い扉・鍵の使用、面格子を計画する。</li> <li>安全対策として道路からの車と歩行者のアクセスを分離する。</li> </ul>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>気象庁舞鶴海洋気象台での観測データと3次元環境シュミレーションシステムプログラムを利用して建築後の敷地周辺環境を数値シュミレーションし、敷地周辺の風環境及び温熱環境に大きな影響を与えない建物形状及び住棟配置を検討した。</li> </ul>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命・省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■ LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照された